



## 2020年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年2月10日

上場会社名 神姫バス株式会社  
 コード番号 9083 URL <https://www.shinkibus.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画部長  
 四半期報告書提出予定日 2020年2月13日  
 配当支払開始予定日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
 (氏名) 長尾 真  
 (氏名) 小林 健一  
 TEL 079-223-1243

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	33,650	1.0	1,145	57.2	1,250	45.4	790	60.7
2019年3月期第3四半期	33,329	2.9	728	33.2	859	28.3	491	39.1

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 1,003百万円 ( %) 2019年3月期第3四半期 156百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	131.23	
2019年3月期第3四半期	81.66	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第3四半期	57,878	43,708	75.5	7,253.62
2019年3月期	56,638	42,915	75.7	7,121.77

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 43,682百万円 2019年3月期 42,890百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		17.50		17.50	35.00
2020年3月期		17.50			
2020年3月期(予想)				17.50	35.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	46,300	0.9	2,590	11.3	2,780	8.3	1,840	5.2	305.54

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期3Q	6,172,000 株	2019年3月期	6,172,000 株
------------	-------------	----------	-------------

期末自己株式数

2020年3月期3Q	149,886 株	2019年3月期	149,586 株
------------	-----------	----------	-----------

期中平均株式数(四半期累計)

2020年3月期3Q	6,022,326 株	2019年3月期3Q	6,022,589 株
------------	-------------	------------	-------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

## 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、海外経済の減速により輸出に影響がみられ、消費税率の引き上げもありましたが、雇用・所得環境の改善や、企業の設備投資が増加傾向にあることから、緩やかに回復しております。しかしながら、世界経済は米中の通商問題や英国のEU離脱問題、中国の成長鈍化のほか、様々な地政学リスクの高まりにより、先行き不透明な状況が続いております。

当社の事業分野におきましては、雇用・所得環境の改善により順調に推移しておりますが、労働需給の逼迫、原油価格の高騰、日韓関係の悪化による訪日韓国人観光客の減少に加え、暖冬による雪不足や新型肺炎が旅行業に影響を与えることが容易に予測されるなど、予断を許しません。

このような情勢の中、当社は3年間の中期経営計画を策定し、2019年4月より開始しております。

本中期経営計画では

①事業の選択と集中、コア事業と位置付ける自動車運送、不動産、成長事業と位置付ける旅行・貸切を中心とした経営資源の再配分

②事業の再定義・事業間の横連携・業務改善による生産性の向上

③既存事業におけるエリア拡大促進

の3つの基本方針の下、インバウンドをはじめとする観光事業における事業展開の拡充と次世代モビリティへの積極的参画による新たな移動サービスへの挑戦を重点取組事項としております。コア事業である不動産において、事業間の連携を強化し、建設、仲介、開発、管理といった不動産に関するサービスをワンストップで提供するために2019年10月1日に当社100%子会社である株式会社エルテオと神姫バスオール株式会社を合併させ、神姫バス不動産株式会社を設立いたしました。また、スマートモビリティやMa a Sなどの交通分野をはじめ様々な地域課題の解決や地域振興に挑戦するスタートアップ企業への出資を目的としたS5ファンドを設立いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比320百万円(1.0%)増の33,650百万円、営業利益は前年同期比416百万円(57.2%)増の1,145百万円、経常利益は前年同期比390百万円(45.4%)増の1,250百万円となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比298百万円(60.7%)増の790百万円となりました。

セグメントの業績は次の通りであります。売上高、営業利益はセグメント間の内部売上高又は振替高控除前の金額であります。

なお、当第3四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較分析しております。

## ① 自動車運送

当事業部門におきましては、「乗務員確保」という喫緊の課題を解決すべく、労働環境の改善、人材の育成、輸送効率の改善等の諸施策に注力してまいりました。乗合バス部門におきましては、一般路線バスにおいて堅調な雇用環境により通勤需要の増加傾向が続き、三宮や新大阪への乗入れを増便し旅客の利便性を高めたことにより、定期券売上が増加いたしました。高速乗合バスは2019年4月「三宮～松江出雲線」を新設したほか、既存路線におきましても増便いたしました。また、前年相次いだ自然災害の反動もあり増収となりました。郵便物輸送部門は新規受託路線の獲得等により増収となりました。タクシー部門は1稼働当たり収入は増加しましたものの、乗務員不足から稼働数が低下し減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比361百万円(2.5%)増の14,967百万円、営業損益は事業拡大や乗務員確保にかかる人件費の増加はありましたが、燃料単価の減少等により前年同期に比べ48百万円(6.7%)改善し、670百万円の営業損失となりました。

## ② 車両物販・整備

車両物販部門におきましては、大口取引先である大型中古車店の車検・整備が好調であり、取引が拡大したことや、大型整備設備の販売・納入、各種イベントの開催による自動車販売が増加したことにより増収となりました。自動車整備部門におきましても、車検整備台数が大型車、普通車ともに増加し増収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比51百万円(0.8%)増の6,322百万円、営業利益は人件費の減少等により前年同期比57百万円(16.8%)増の401百万円となりました。

## ③ 業務受託

車両管理部門におきましては、新規受注及び既存取引先との契約価格の増額に努めましたが、解約・取引縮小等により減収となりました。経営受託部門は2018年10月まで姫路市宿泊型児童館「星の子館」がリニューアル工事のため休館していたことや、屋外施設の利用者が増加したことにより増収となりました。介護部門は前年度開始した機能訓練サービスを積極的に営業した結果、デイサービス等各サービスが総じて増収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比59百万円(2.4%)増の2,530百万円、営業利益は燃料費の減少等により前年同期比29百万円(18.6%)増の191百万円となりました。

## ④ 不動産

住宅部門におきましては、建売住宅の販売戸数は減少しましたが、注文住宅の販売戸数が大きく増加したことにより増収となりました。建設部門は前年の工場新築工事分を取り戻しきれず減収となりました。清掃・警備部門は放置車両確認業務が減少しましたが、新たにホテル清掃等を受注したことにより増収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比201百万円(5.5%)増の3,848百万円、営業利益は前年同期比150百万円(14.8%)増の1,171百万円となりました。

## ⑤ レジャーサービス

飲食部門におきましては、2019年1月「いきなりステーキ姫路駅前店」の事業譲受及び2019年5月FC店「さち福やCAFE相鉄フレッサイン神戸三宮店」等の出店により、またツタヤFC部門は2019年5月「TSUTAYA熊見店」の事業譲受により増収となりました。なお、食品製造販売部門の株式会社富士屋かまぼこは2019年3月に株式譲渡しております。以上の結果、売上高は株式会社富士屋かまぼこの売上が減少したことにより前年同期比301百万円(6.5%)減の4,321百万円、営業利益は前年同期比31百万円(59.7%)増の85百万円となりました。

## ⑥ 旅行貸切

貸切バス部門におきましては、東京ディズニーリゾート等東京方面行きバスを増便したことにより増収となりました。旅行部門では、手配旅行は例年以上のゴルフギャラリ輸送の手配受注がありましたが、総受注件数が減少したことにより減収となりました。一方、募集型企画旅行では主力ブランドの「バス旅」「真結」や訪日外国人観光客向けの1 Day、ゴールデンルートツアー、にっぽん丸チャータークルーズ等の集客が好調に推移しました。以上の結果、売上高は前年同期比204百万円(6.5%)増の3,342百万円、営業損益は前年同期に比べ104百万円(75.9%)改善し、32百万円の営業損失となりました。

## ⑦ その他

農業部門におきましては、運営方法、拠点の一部見直しにより減収となりました。コンビニエンス(ファミリーマートFC)部門は利用客の低迷により減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比73百万円(7.1%)減の960百万円、営業利益は農業部門の収支改善等により前年同期比17百万円(339.0%)増の22百万円となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ1,240百万円増加し、57,878百万円となりました。増減の主なものは、現金及び預金の増加2,517百万円、有価証券及び投資有価証券の時価評価等による増加388百万円、商品及び製品の増加135百万円、分譲土地建物の増加101百万円、受取手形及び売掛金の減少1,465百万円、有形固定資産の減少424百万円等であります。

負債は、前連結会計年度末に比べ446百万円増加し、14,170百万円となりました。増減の主なものは、未払金の増加832百万円、支払手形及び買掛金の増加129百万円、繰延税金負債(固定負債その他)の増加96百万円、賞与引当金の減少381百万円、リース債務の減少307百万円等であります。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等による利益剰余金の増加582百万円、その他有価証券評価差額金の増加256百万円等により、前連結会計年度末に比べ793百万円増加の43,708百万円となり、自己資本比率は75.5%となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の業績予想につきましては、2019年11月11日に公表した予想を変更しておりません。今後の事業環境や収益見通し等を見極め、業績予想の修正の必要性があれば速やかに修正を開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,662	10,180
受取手形及び売掛金	4,821	3,356
有価証券	70	—
商品及び製品	496	632
仕掛品	246	244
原材料及び貯蔵品	123	127
分譲土地建物	352	454
その他	712	558
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	14,483	15,548
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	26,335	26,412
減価償却累計額	△16,642	△16,877
建物及び構築物 (純額)	9,692	9,534
機械装置及び工具器具備品	2,901	2,948
減価償却累計額	△2,214	△2,287
機械装置及び工具器具備品 (純額)	686	661
車両運搬具	16,788	17,580
減価償却累計額	△13,145	△14,025
車両運搬具 (純額)	3,642	3,555
土地	19,190	19,245
リース資産	1,953	1,285
減価償却累計額	△1,053	△671
リース資産 (純額)	899	614
建設仮勘定	38	115
有形固定資産合計	34,150	33,726
無形固定資産		
のれん	19	16
その他	393	444
無形固定資産合計	412	460
投資その他の資産		
投資有価証券	4,198	4,656
退職給付に係る資産	1,248	1,285
その他	2,264	2,240
貸倒引当金	△119	△39
投資その他の資産合計	7,591	8,142
固定資産合計	42,154	42,329
資産合計	56,638	57,878

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,185	1,314
短期借入金	—	240
1年内返済予定の長期借入金	261	219
リース債務	398	258
未払金	3,119	3,952
未払法人税等	240	247
賞与引当金	987	605
過年度雑収計上旅行券引当金	21	21
その他	2,475	2,519
流動負債合計	8,689	9,379
固定負債		
長期借入金	375	213
リース債務	599	431
役員退職慰労引当金	60	43
退職給付に係る負債	871	904
その他	3,126	3,198
固定負債合計	5,033	4,790
負債合計	13,723	14,170
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,140	3,140
資本剰余金	2,235	2,235
利益剰余金	36,361	36,944
自己株式	△448	△449
株主資本合計	41,288	41,870
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,449	1,706
為替換算調整勘定	—	△3
退職給付に係る調整累計額	151	109
その他の包括利益累計額合計	1,601	1,811
非支配株主持分	24	26
純資産合計	42,915	43,708
負債純資産合計	56,638	57,878

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	33,329	33,650
売上原価	24,617	24,842
売上総利益	8,712	8,808
販売費及び一般管理費	7,983	7,662
営業利益	728	1,145
営業外収益		
受取利息	10	9
受取配当金	71	62
持分法による投資利益	2	2
助成金収入	42	36
その他	71	67
営業外収益合計	197	178
営業外費用		
支払利息	2	1
固定資産除却損	23	41
関係会社貸倒引当金繰入額	32	8
その他	8	22
営業外費用合計	66	73
経常利益	859	1,250
特別利益		
車両等購入補助金	57	16
負ののれん発生益	—	10
特別利益合計	57	26
特別損失		
固定資産圧縮損	54	15
関係会社株式評価損	—	18
その他	1	—
特別損失合計	55	34
税金等調整前四半期純利益	861	1,242
法人税等	368	450
四半期純利益	492	792
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	1
親会社株主に帰属する四半期純利益	491	790



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	492	792
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△610	255
退職給付に係る調整額	△36	△44
持分法適用会社に対する持分相当額	△1	0
その他の包括利益合計	△648	211
四半期包括利益	△156	1,003
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△156	1,001
非支配株主に係る四半期包括利益	0	1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

2019年10月1日付で連結子会社であった神姫バスオール株式会社は、連結子会社である株式会社エルテオを存続会社とする吸収合併により消滅したため、当第3四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

なお、株式会社エルテオの商号を神姫バス不動産株式会社へ変更しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物販・整備	業務受託	不動産	レジャーサービス	旅行貸切	計		
売上高									
外部顧客への売上高	14,454	4,619	2,456	3,111	4,623	3,037	32,302	1,026	33,329
セグメント間の内部売上高又は振替高	151	1,651	15	535	—	100	2,454	6	2,460
計	14,606	6,270	2,471	3,647	4,623	3,138	34,757	1,033	35,790
セグメント利益又はセグメント損失(△)	△719	343	161	1,020	53	△137	722	5	727

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、農業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	722
「その他」の区分の利益	5
セグメント間取引消去	1
四半期連結損益計算書の営業利益	728

II 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物販・ 整備	業務受託	不動産	レジャー サービス	旅行貸切	計		
売上高									
外部顧客への売上高	14,807	4,673	2,515	3,171	4,321	3,209	32,700	950	33,650
セグメント間の内部 売上高又は振替高	159	1,648	15	676	—	132	2,632	10	2,642
計	14,967	6,322	2,530	3,848	4,321	3,342	35,333	960	36,293
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	△670	401	191	1,171	85	△32	1,145	22	1,167

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、農業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,145
「その他」の区分の利益	22
セグメント間取引消去	△22
四半期連結損益計算書の営業利益	1,145

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

2019年10月1日付で連結子会社である株式会社エルテオと神姫バスオール株式会社が合併し、神姫バス不動産株式会社に商号変更しております。これに伴い、当第3四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分方法を見直し、従来「その他」に含まれていた神姫バスオール株式会社の事業を「不動産」として記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後のセグメント区分で記載しております。